次は北向観音堂です

正面が観音堂

北向観音

本尊は千手千眼観世音菩薩で北斗星が暗夜の指針となるように、この北向きの、み仏は衆生を現世利益に導く霊験があり、南向きの善光寺と相対し古来両尊を参詣しなければ片詣りになるといわれている。
天長2年(825年平安時代)常楽寺背後の山が激しく鳴動を続けた末、地裂け人畜に被害をあたえたので、これを鎮めるため慈覚大師が大護摩を厳修すると紫雲立ちこめ金色の光と共に観世音菩薩霊像が現れた。大師自らこの霊像を彫み遷座供養したと伝えられている。

Kitamuki Kannon

As the stars of the sky provide guidance through the darkness of night, this Kitamuki Kannon has the power to guide people to worldly benefit. This temple is juxtaposed with Zenkoji Temple to the south, and it was once said that without paying respects at both temples, one would become unbalanced.

In the year 825, when the mountain that lies behind Jorakuji Temple split the earth after a great noise, causing damage to people and animals, the great teacher Jikaku lit a holy fire. From that fire appeared golden light, the color of ripened rice, and the deity Aisenkatsura. Jikaku is said to have carved the statue of that spirit himself and performed sacred rites with it.

観音堂/1721年再建

北向山

北向山

厄除観音として知られる「北向観音堂」は、平安時代初期の天長２年（825年）比叡山延暦寺座主慈覚大師円仁により開創された霊場です。

安和２年（969年）、平維茂は一山を修理し、三楽寺、四院、六十坊を増築したと伝えられます。寿永元年（1182年）には源平争乱の中、木曾義仲の手により八角三重塔と石造多宝塔を残して全て焼失してしまいますが、源頼朝の命のもと伽藍復興がおこなわれ、建長４年（1252年）、塩田陸奥守北条国時により再興されました。

本堂が北を向いているのは、わが国でもほとんど例がないようです。その由来は、観世音菩薩出現の際、「北斗七星が世界の依怙（よりどころ）となるように我も又一切衆生のために常に依怙となって済度をなさん」というお告げによるものといわれています。

北向山

北向山

福繁春
納
奉

不動堂

不動堂

舞台造りの医王尊瑠璃殿（温泉薬師瑠璃殿）/1809年再建□

鐘楼

愛宕・カツラ

足元の六地蔵

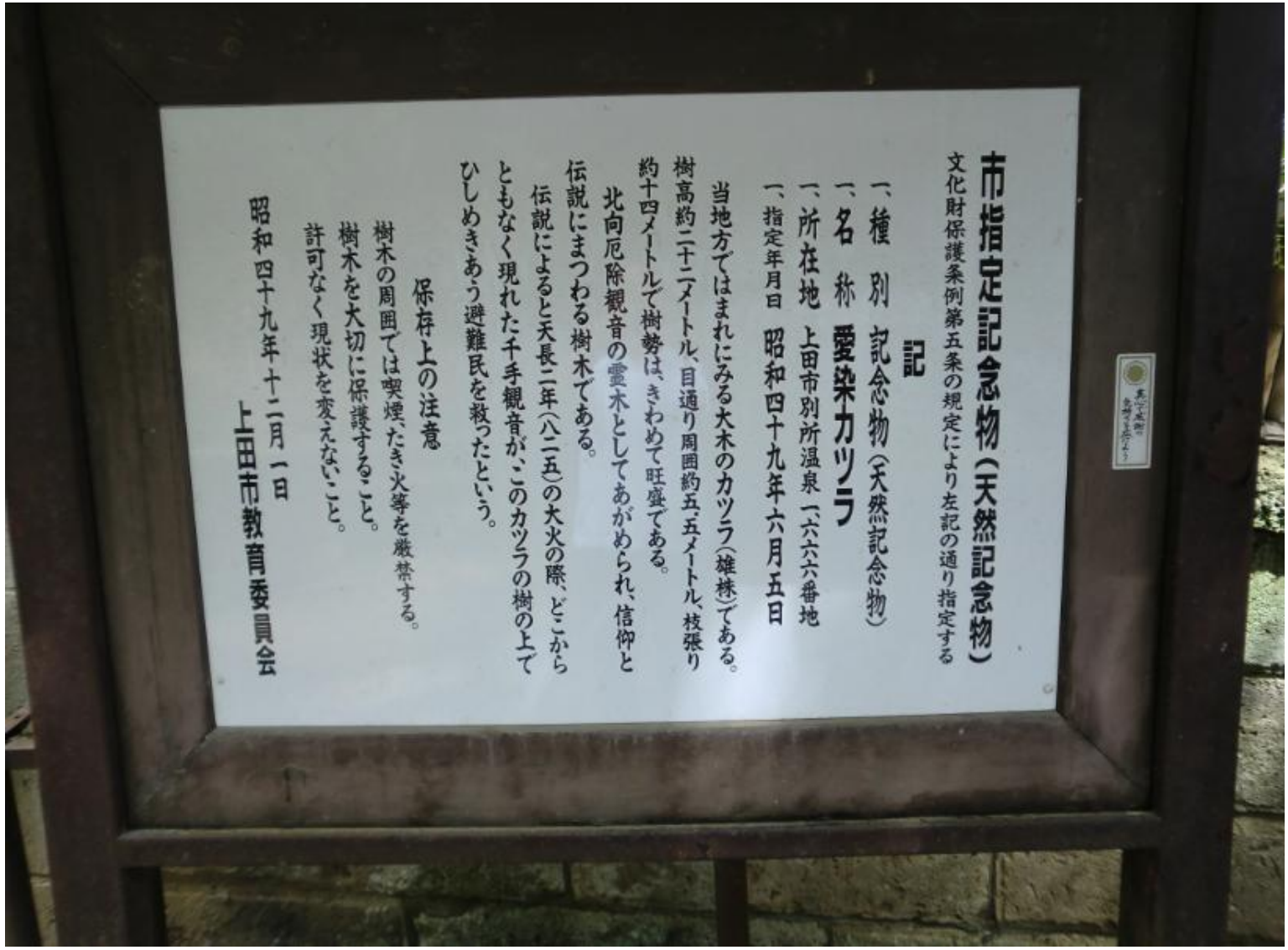
愛染明王堂

札所観音堂

手水舎

手水も温泉

愛染カツラ



市指定記念物（天然記念物）

文化財保護条例第五条の規定により左記の通り指定する

記

一、種　別　記念物（天然記念物）

一、名　称　愛染カツラ

一、所在地　上田市別所温泉一六六六番地

一、指定年月日　昭和四十九年六月五日

当地方ではまれにみる大木のカツラ（雄株）である。樹高約二十二メートル、目通り周囲約五・五メートル、枝張り約十四メートルで樹勢は、きわめて旺盛である。

北向厄除観音の霊木としてあがめられ、信仰と伝説にまつわる樹木である。

伝説によると天長二年（八二五）の大火の際、どこからともなく現れた千手観音が、このカツラの樹の上でひしめきあう避難民を救ったという。

保存上の注意

樹木の周囲では喫煙、たき火等を厳禁する。

樹木を大切に保護すること。

許可なく現状を変えないこと。

昭和四十九年十二月一日

上田市教育委員会

愛染カツラの大木

めおと杉

こんな高台にあります